

○ 意見交換 【南小学校区】

(参加者 A)

2点あります。1点目は、まちづくりの中で「次世代を担う子ども・若者の育成」とありますが、全国学力テストで大口町は小学生正答率が全国43位ということで、小学校・中学校のレベルが低いのではないかとということが気になります。将来的に優秀な労働力が確保するため、大口町の住民は、産業が発展する中で、技術者を育てるための小学校・中学校の学力をつけることをキーにした方が良くと思います。

議会では、「9年間をとおして主体的にまとめる授業を」と仰っていますが、小学校・中学校の各年代、ポイントポイントで、低レベルをなくすことが重要だと思います。

政策推進課長 (社本 寛)

学力テストについては、データは公表されていない為、個々の内容は分かりません。聞き及んでいるのは、成績の幅が広いということです。全国的には学力テストの成績が高い学校や低い学校の結果を公表する、ということで、学力テスト向けの授業やトレーニングを行っている学校もあるそうです。こうしたことでは本末転倒ですので、本町教育委員会では、成績の幅をできるだけ狭めるためレベルの底上げを図ったり、勉強の習慣がないお子さんに習慣をつけたり、ということを考えていらっしゃるようです。

ただ、町内3小学校の状況は異なるため、考え方はそれぞれ若干違うようですが、平成28年度は、学習機会を習慣づけるような場の提供という新しい施策を検討していく予定ですので、今しばらくお時間をいただきたいと思います。

また、学力も大事ですが、心も大切であり、そのバランスを検討していくということになります。

それから、技術者ということに関してですが、大口町には比較的製造業が多く在ります。商工会を中心とした発明クラブという取り組みが始まって、およそ7、8年になります。小さな町ですので、人数は多くありませんが、小学生が、技術者のOBの方々を中心とした大人たちと一緒に工作等をしております。町としても少し資金援助をしながら、技術系の面白さを身に着けてもらえるような場の提供をすすめております。

(参加者 A)

もう1点目は、道路交通の件です。町内は近年工場が増え、朝は車が多い状況です。41号線・155号線を拡張することにより、交通渋滞を失くせば、住民の生活が安定するということで、そうした施策を進めると述べられています。

しかし、住民は既に朝晩、通勤車が多く、道を渡ったり、ゴミを捨てたりするのに困っています。さらに道路を広くすると住民はより迷惑をこうむると思います。しかも、町内を通り抜けて小牧市などの町外に向かう町外在住者の車が多くあります。そのために道路を広くした結果、大口町に住む人が道路を横断できなくなる可能性があります。町民の生活環境が産業のために犠牲になっていくことが懸念されますので、第7次総合計画に疑問を感じます。

もう1件は、人と車を分離させる信号の設置がほとんど進められていないということです。信号の矢印は多く、車は優先してもらえますが、そのために横断する子どもたちがどう渡って良いのか分かりにくいと思います。交通行政というのは、企業のために進めることも必要ですが、もう少し住民のことを考えておこなってほしいと思います。

副町長（大森 滋）

道路行政について、ご意見いただきました。確かに朝・夕渋滞が多いことはございますが、41号線や県道といった幹線道路を整備することで、生活道路に通勤車が入ることを留めたいと思っています。

企業に通う人も含めて生活者であるという観点から、町内を通過する車も通行をしやすいようにしていく一方で、生活者の日常生活の安全を確保していくという観点から、先ほど申し上げたように幹線道路を整備することによって、生活道路の中に車が入りこまないようにする為に、41号線や155号線の整備が急がれるのかなと思います。

もう一つ、人と車の分離は当然のことですので、歩道やグリーンベルト帯の設置を進めております。一番理想的なのは道路を広くし、歩道を設置することですが、なかなか一気に進められるものではありません。大口町の経済発展の状況と道路整備がなかなか追いついていかないという状況ですが、気付いた点をご指摘をいただき、また第7次総合計画に基づいた施策を進めていく中で、念頭に置きながら進めていきたいと思っています。

(参加者 B)

1点目は、第6次総合計画の進捗状況が分かっていたら教えていただきたいです。

2点目は、新しい二市二町のごみ処理施設について、今のくらい進んでいるのか教えてください。町内のごみ処理施設も相当の年数が経過しておりますので、地元の方も大変心配しております。

最後ですが、新しい計画には、まちづくり基本条例に基づく地域自治組織の状況を入れていただいております。

資料1のアンケートでは、地域自治組織の認知度は5割、参加意向は3割ということで、PRをもっとしなければならぬという結果になっております。地域自治組織については、実質2年目ということで、各地域の自治組織においては、各地域に合った施策を展開しており、毎月、3地域で意見交換会を実施しております。南地域自治組織では、毎月の理事会はもちろんのこと、住民の皆さんに地域自治組織の活動状況をご理解いただけるよう瓦版も発行してきておりますが、こういった結果をみますと、がっかりしてしまいます。

今回の分野別計画の中に、地域自治組織や行政区の支援が加えられていると受け取っていますが、今後とも地域自治組織を継続していくためには、人材育成が本当に大切だと思いますので、人材育成について強力な行政支援をお願いしたいと思っております。

今後とも行政区を越えた活動ということで、行政区との住み分け及び連携、関係を大切に、自治活動に励みたいと思います。

役場の皆さんには一生懸命やっただいており、特に不満はありませんが、今後の人材育成等は必要だと思いますのでご支援をお願いしたいと思います。

(政策推進課長 社本)

第6次総合計画策定の5年ほど前、計画策定にあたり数値目標というのがクローズアップされた時代がありました。第6次総合計画を策定する頃は、数値化し過ぎ、数値化できないものも数値化したり、数値を作ることが仕事になってしまったりと数値目標の弊害が出てきていた時期でした。

そこで第6次総合計画の策定時には、行政の仕事は根本は基本的には変わらないだろうと、個別の施策は書いていない、普遍的な方向性を示す全国的にも珍しい計画を作りました。

しかし、「健康おおぐち21」など個別の計画がある分野は良いですが、4・5年経過するとあまりにも計画が書いていないため、比較のしようがなくなりました。第7次の計画では、この反省を踏まえ、数値化できそうなものは数値

化することにしました。このため質問にありました第6次総合計画の進捗状況ははかりようがない状況です。ただ、これから町をどうしていくかという第6次総合計画の方向性は第7次総合計画でもほとんど受け継いでおりますので、そういった面では間違いではなかったと評価しております。

また個別の計画では個々評価していますので、いい加減な仕事をしている訳ではないと思います。

地域自治組織は、最近、活動が活発になって見えてきたものがあります。今から15年ほど前、NPOの活動を推進し始めた際、ボランティアとNPOと確執が出来たことがあり、トラブルが結構発生しました。同じように今、行政区と地域自治組織との間で、役割分担がうまく見えない為、確執が出来ております。地域自治組織の活動については、なかなか理解が進んでおらず、一定の時間が必要だと思っております。

平成28年の第7次総合計画のスタートに合わせ、行政区の役割・自治組織の役割・役場の役割の見直しを進めようと内部で話が出ております。役場から行政区にお願いすることが若干増えすぎている気もします。つい最近では、地域自治組織、役場、NPOで3回も同じ福祉系の講演をやったため、調整できないのかという話もありました。こうした面も平成28年度に見直したいと思っております。

人材は、本当に大切だと思います。人材を人財として、第7次総合計画に記載しようかという話もありますが、時間がかかる話なので、意識して取り組んでまいりたいと思います。

(鈴木 大口町長)

ごみ処理施設の問題については、昨晚、ごみ小ブロック懇談会に出席し、我々の想いを伝えてまいりました。今年度中に候補地を設定する、という話をしている状況です。候補地が決まったとしても、それから土地の買収などを進めるため、100%決定とは言えませんが、ひとまず候補地を決めませんと、いつから供用開始できるかも計画できませんので、3月までには候補地を決めて、今後のスケジュールを出していこうと進めていますことをご理解ください。

現在、河北の焼却場は、建設してから30年以上が経過し、全国的にも珍しいくらい古い建物です。しかし、皆様のご協力をいただき、今のところ大きな故障や事故もありません。今後も大事に使いながら、新しいごみ処理施設ができるまで、できるだけ使用させていただきたいと思っておりますのでご協力をお願いします。

最終処分については、平成30年3月までが期限となっておりますので、今後の体制を作ってまいりたいと思います。

(参加者 C)

1点目は、基本計画の総論で将来人口などが記載されておりますが、平成37年の町の財政規模はどのくらいを想定されておりますか。

2点目は、行政は色々と大変な時代ですが、中でも緊急性の高い事業は農業育成かと思います。町内を車で走っておりますと、耕作放棄地や放棄になりかけた土地をよく見かけます。分野別計画には「農地の流動化促進」と記載されておりますが、「後継者の育成」や「耕作放棄地を集積し、工業用地に転用する」等、今後の施策のスケジュールをお伺いしたいと思います。

3点目は、事業実施にはお金がかかります。税収の向上に向け、まちづくり戦略3のところで、「地域のポテンシャルを引き出し、企業誘致をする」といったことが書かれておりますが、地域の工業化に向けたポテンシャルは、大口町では非常に高いと思いますので、ぜひ進めていただきたいです。参考に、パチンコ店の税収はどれほどでしょうか。

(政策推進課長 社本)

財政規模については、正直分かりません。固定資産税については、横ばいかと見込まれます。今の段階で、大きな建設工事が無ければ、一般会計は70億円から75億円程となります。国民健康保険特別会計では20億円ほど、介護保険特別会計も10億円を超えており、今後も増えていくことが見込まれます。

本当は、財政規模を具体的にお伝えできると良いのですが、具体的に述べることは難しい状況です。今は、規模がどれくらいになるかよりも、経常経費を抑えながら進めていこうと心がけています。また、人口構成によっても違ってくるため、明確な数値は出しておりません。

農業施策については、従来は、農業用機械を買うのに補助金を出す取り組みをしてきましたが、農業用機械を扱う後継者そのものが危ぶまれている状況です。大口町ではまだ顕著化しておりませんが、東北地方や山岳地域といった全国的には放棄田の問題も増えてきています。農地の魅力を伝えるということもありますが、大口町は田が多く、なかなか収益が上がらないものですから苦慮している状況です。外坪では会社組織を作っている所もありますが、この計画の中では、模索しながら考えていかないといけないと思います。

陳情で補助金を増やせと言われるときにお話することは、スーパー等だけでできるだけ地元や国産の野菜を選ぶようにするといった消費の方法を皆で考え、お

金を出していくことが必要だと思えます。

先ほど、住むところという話がありましたが、大口町は、20歳代で企業に就職される方で、一時的に町内に住まわれる方は多くみえます。ただ、人口を増やす施策をとっていないため、宅地の供給を積極的に行っておらず、住むときに転出されていきます。急激に人口が増えますと、行政利用が増える為、人口を増やす施策をとっていないことは間違っていないと思えます。

しかし、人口減少の中、今後、空き家が出てくることが見込まれます。南地域自治組織では少し取り組んでいただいたようですが、行政としても平成28年度から本格的に、皆様のお力添えいただきながら、個人の財産ですので難しい部分もあるかとは思いますが、空き家の提供などに取り組んでいけないかなと思っております。通勤が近くなるというメリットもございますので、働かれる方に大口町に住んでいただけないかなと思っております。

(鈴木 大口町長)

工場誘致や農地に関しまして、私の独り言として聞いていただけたらと思えます。

農業振興の中で、農地利用になると税収はそんなに多くありません。工場立地については、農地を工場用地に変えていくということになりますと、「農地はどうするのか」、「工場はどうするのか」と、両方を要望される意見もいただき日々悩んでいるところです

農地は、水が流れることで浄化が促進され、住みやすく、あまり汚染されていない綺麗な土地になりますので、全てを失くすわけにはいきません。しかし、後継者の問題等もあり、工場用地の買収交渉の中で、最初は、「代替地を」という話もされますが、最終的に誰が農業をやるのかということをご家族で考えていただいた際、「売ってしまった方が良い」という結論に至る方が圧倒的に多いという事実があります。また、名古屋市との距離を考えると、高速道路のおかげで10分から15分で行けるという利便性から、この地域に進出していただける企業が多いため、企業促進に関しては今後も努力していきたいと思っております。

農業は残せるものなら残していきたいと思っております。農業をやれる人がいて、きちんとやっていただける方がいれば、今後も残していきたいと思っております。実際に我々から、農業をやっていただけるのかということ強制することもできませんし、売りたいと仰れば、そのように進めざるを得ません。できる限り持続可能な形で農業を残していかなければならないと我々職員は思っておりますのでご理解ください。

税収の問題にもつながりますが、企業は業績が良い年、悪い年があり法人税等収入が左右され、明確な目標がたてられません。しかし、固定資産税については、毎年確実に徴収ができます。工場が立地された時点から、土地に関する固定資産税が入ってきますので、安定した収入の1つとして、工場の進出をお願いしながら税収増加を図っていきたいと思っております。

先ほど副町長も話しておりました高額医療に関してですが、高齢者が徐々に増加している関係で、高額医療に関する保険料がかなりかかってきており、各議会のたびに1億円程補正予算として計上していかないと追いついていかない状況もあります。治療については費用がかかってきますので、皆さんが健康で長生きしていただける施策をとらせていただきたいと思いますので、ご理解いただきたいと思います。

道路についてですが、町内を通る車で、町内企業に勤められる方で1万7千人程いらっしゃいます。郷中を走る車の中で、実際に、勤めていらっしゃる方と、町内を通過点にしている方がいらっしゃることを考えると、道路整備を早く進めなくてはならないと考えております。

オークマから村中まで41号線が混み合っているため、町内を通り抜け、他の市町にある企業に働きに出ようとする車で渋滞してしまっていることを思うと、道路整備を考えなければならないと思います。そして、41号線の片側3車線化を進めれば、町内を通過する車両は減ってくると思いますので、皆さんにご理解いただければと思います。

恐らく5、6年はかかることになると思います。例えば外坪松山のトンネルは、41号線を通行止めにする訳にはいかないので、1車線ずつ壊して、平らにして新しい道路にしていくので、完成に3年かかります。トンネル自体、3年間は使えなくなり、渋滞などご不便をかけることとなりますが、将来的なことを考えますと全面交差にすることで交通渋滞を緩和していきたいと思っておりますので、もう少し前の方を向いていただいて、今後のあり方を見て頂ければありがたいと思います。

(座長：総務部長 馬場)

他によろしかったでしょうか。

予定の時間を少々過ぎておりますので、手短にお願いします。

(参加者 D)

南地域自治組織で、青色防犯パトロールを、毎日行っており、南地域全体を朝と夕方5時から6時ごろにまわっております。青パトを提供してくださって

いる方の車を利用している関係上、拘束されています。そこで、小さい車で結構ですので、地域自治組織の方に役場から1台ずつ、出してもらうことができればと思いますが、ご検討いただけないでしょうか。

（座長：総務部長 馬場）

財政的な話もあり、各団体に車を貸与ということまでは、現段階では考えていないというのが実情ですので、ご理解ください。

（参加者 D）

町に青色防犯パトロール車が3台ほどあると伺っていますが、自由に使えるのでしょうか。

（政策推進課長 社本）

青色防犯パトロールの活動が始まった際、公用車を使えるように、という話があり、年数は忘れましたが、ようやく使用できるようになりました。

わざわざ取りに来ていただくのは大変かもしれませんが、お金を有効に使っていく上で、夜間は公用車が動いていないという現状もありますので、台数を増やししながら、お互い不自由な部分もありますが、お金を上手に使いながらやっていければと思います。

また、地域自治組織との連携についても、担当課に相談しつつ進めていければと思います。

（参加者 D）

それでは、平日の利用はダメですね？

（政策推進課長 社本）

使われる時間帯が決まっていれば、調整しながら使用することは可能だと思います。

（参加者 D）

以前、土曜日と日曜日しか駄目だということを聞いたことがあります。平日の夕方6時ごろから1時間半ほど使わせていただくのも一つの方法だと思います。

(政策推進課長 社本)

活動時間帯を調整すれば可能ですし、台数が足りなければ、他の公用車を使いながら進めていけば良いと思います。庁舎内でもはたらきかけていきますので、今後調整していきましょう。

(座長：総務部長 馬場)

今後とも青色防犯パトロールのご協力をお願いします。

時間を超過しておりますが、皆様ありがとうございました。

前のボードを確認しますと、色んなご意見をいただきました。学力テストの問題から始まり、子育ての問題、技術者育成、道路行政、第6次総合計画の内容、ごみ処理施設や地域自治組織、農業関係問題、工業誘致、税収の心配などです。色んなご意見をいただくということは、皆さんがそれだけ色々なことにご心配をいただいているということだと思います。今日のご意見を第7次総合計画に反映させるとともに、今後の行政運営に生かしていきたいと思います。

最後に町長から一言、お話があります。

(鈴木 大口町長)

皆さんからの色々なご意見を伺い、自分自身でも安心したことが1つあります。

ここにお集まりの皆さん、町内にお住まいの皆さんが大口町という町を愛してくださっており、また大変ご協力いただいている、ということが良く理解できました。それぞれの立場や考え方で大口町を良くしようと考えていらっしゃることに心打たれ、他の町にない素晴らしいことだと心打たれました。

今の大口町では、自転車事故が愛知県ワースト1です。交通事故に遭う訳がないと思いながらも、中学生・高校生が加害者にも被害者にもなっている事故が頻繁に起きているのが実情です。もし、皆さんの目に留まる乱暴な交通違反を犯すような自転車の子がおりましたら、勇気をもって注意していただくことが必要だと思います。

また本日は、青山製作所の社員さんにもお越しいただいておりますが、町の色々な事業や運動に企業の皆さんにご参加いただいております。大口町は、企業と住民が一体となれる素晴らしい町だと思っております。

私は、町内人口の自然増は良いと思いますが、新たにマンションや住宅を建設するような人口を増やす施策をとっていくつもりはございません。これからも人口が自然増となるような施策をとっていき、今、大口町が持っている優しさを維持できるようなまちづくりをおこなっていきたいと思っていますので、

皆様ご協力を賜りますようお願いいたします。

また、企業の皆様には言い方が悪いですが、一生懸命稼いでいただいて、少しでも税金を頂戴できるよう、我々も努力してまいりますので、企業の皆様のご協力いただきながら、地域との連携を進めさせていただきたいと思っております。

以上、挨拶に代えさせていただきたいと思っております。

本日は、本当にありがとうございました。